

創立 50 周年記念紀要の刊行にあたって

学長室から観る鈴鹿連山は、先週降り積もった雪が大きな真っ白な帽子とドレスを纏ったように美しい姿を見せています。冬の厳しい寒さと、そんなに遠くはないかすかな春の息吹とを感じさせてくれます。

さて、昭和 41 年（1966 年）に開学された鈴鹿大学短期大学部は、本年度 50 周年という節目を迎えました。これを機に、今年 4 月には短期大学部の一部を 4 年大学化し、鈴鹿大学に新学部「こども教育学部」を開設します。この間、本学を取り巻く社会環境は、予想をはるかに超える激動の連続でした。現在の小学生が大学を卒業する頃には、人工知能などの開発が進み、今ある仕事の半分が消滅するといわれています。その中であって、本学は、地域社会の要請に応えるべく、多くの卒業生を輩出し、今日の礎を築いてきました。それは、本学を取り巻く多くの方々の並々ならぬご支援の賜物ですが、その一方では、本学教職員の研究、教育に対する真摯な取り組みの結果であったとも自負しております。それらの研究成果は、毎年発刊される研究紀要に掲載されてきましたが、本年は、50 周年という記念すべき年にあたり、特別な思いで刊行されることになりました。

本学は、生活コミュニケーション学科の一学科ですが、「養護教諭・音楽療法士コース」、「ペットコース」、「栄養教諭・栄養士コース」、「幼稚園教諭・保育士コース」を擁し、人間の豊かな生活をサポートする人材を養成することを目的としています。したがって、本紀要に掲載されている論考は、多義にわたって展開されておりますが、「人々の幸せとは何か」という問いが根底に貫かれていると思われまます。

開学 50 周年というこの機会に、本学の研究・教育がより一層発展することを祈念して、記念紀要刊行の冒頭の挨拶にかえたいと思います。

2017 年 1 月 24 日

学長 市野 聖治